

2019年5月21日
東京大学医学部附属病院

東大病院 新生児・小児 ICU 系病棟の移転と大幅増床 — 未来のこども達のために —

東京大学医学部附属病院（以下、東大病院）の新生児・小児ICU系病棟は、2019年5月31日（一部、6月7日）に既存の入院棟A・2階のフロア全体を使って新たに整備した病棟に移転し、大幅に増床します。新生児特定集中治療室（NICU）が現行の9床から最終的に21床に、新生児回復期治療室（GCU）が15床から36床に、小児集中治療室（PICU）が6床から12床となり、病床面積だけでも現在の約3倍に相当する合計約1500 m²となります。東大病院はこの移転・大幅増床により最重症のこどもを救命し、小児科学・新生児学を最大限に発展させるとともに、この領域の将来を担う優れた医師・看護師を育成することを目指します。東大病院は未来の世界を担うこども達のためにさらに貢献したいと考えています。

【1. 背景】

東京都は少子化の中でも必ずしも出生数が減っておらず、逆に母体高齢化によりハイリスク新生児の出生は高止まりの状態です。東大病院では、そうした妊婦の母体搬送や入院を必要とする新生児の搬送の依頼に、NICUが満床のために残念ながらこたえられず、他院に受入れをお願いするようなことがありました。また、心臓手術をはじめとして、どのような疾患をもつ新生児でも治療できる病床は東京都においても必ずしも十分ではありません。さらに近県ではそのような高機能病床の不足が顕著で、東京都への依存が続いている状況です。これらの理由から、東京都であらゆる治療が可能な高機能な新生児・小児ICU系病棟の充実が求められています。

東大病院は東京都が指定する4つのこども救命センターの一つで、区東ブロックの小児高度救命医療を担っていますが、PICU病床が6床しかなく、その拡充が求められています。さらに、東大病院は小児心臓移植が可能な全国で4つの施設の一つでもあります。

日本の新生児・小児集中治療については、今まで国立大学で十分な医師・看護師教育、人材育成がなされてきたとは言いがたく、近年、全国的にその解消を目指す動きがあります。東大病院も、これらの分野の専門職教育、人材育成をこれまで以上に推進するこ

とが期待されています。

日本の新生児医療は世界で最も良い治療成績を維持している一方で、学術的な研究面での貢献は十分とは言えません。また、小児集中治療領域はその傾向がより顕著で、世界的にみると学術的にかなり遅れている状況です。日本のアカデミアが今後、この新生児・小児集中治療領域での学術研究面で世界に貢献して行くことが強く求められています。

【2. 内 容】

(1) 新生児・小児ICU系の病床数が約2倍に

東大病院の新生児・小児ICU系病棟は、2019年5月31日（一部、6月7日）に既存の入院棟A・2階のフロア全体を使って新たに整備した病棟に移転し、大幅に増床します。NICUが現行の9床から21床に、GCUが15床から36床に、PICUが6床から12床となり、病床面積は現在の約3倍に相当する合計約1500 m²となります。移転当初は安全性を確保するためNICU 15床、GCU 21床、PICU 8床から運用を開始し、段階的に体制を整え、1年後には全ての病床が稼働する予定です。これまで、NICU/GCUとPICUは別々のフロアにありましたが、1フロアに全てが集まります。

この度の増床で、NICUの満床が理由で母体搬送・新生児搬送が受け入れられない状況が改善されると考えられます。また、東京都における新生児心疾患の手術症例の受入れや近県からの重症新生児・小児の受入れも、これまで以上に可能になると考えられます。

● 新生児特定集中治療室（NICU）/新生児回復期治療室（GCU） 概要

病床数	NICU：21床（当初は15床で運用） GCU：36床（当初は21床で運用）
面積	NICU：538 m ² GCU：405 m ²
年間収容予定人数	600名（最大増床時 ※初年は450名）
スタッフ数	医師：9名（当初） 看護師：NICU 31名/ GCU 28名（当初）
得意とする疾患・治療	超低出生体重児、先天性心疾患、全ての新生児外科疾患、体外循環血液浄化療法、膜型人工肺治療、低体温療法

● 小児集中治療室 (PICU) 概要

病床数	12床 (当初は8床で運用)
面積	508 m ²
年間収容予定人数	550名 (最大増床時 ※初年は400名)
スタッフ数	医師 (専属) : 4名 看護師 : 31名
得意とする疾患・治療	小児重症患者全般、小児心臓移植、小児肺移植

(2) 臨床・基礎研究を通じて次世代の小児科医の育成の拠点に

東大病院では国立大学病院の立場から、この度の新生児・小児ICU系病棟の拡充により、診療面だけでなく、この分野の専門職教育、人材育成を最大のミッションと捉え、将来を担う優れた医師・看護師を育成することを目指しています。今後、全国的な少子化で、新生児・小児集中治療の研修の場は少なくなり、全国規模で検討する必要があると考えられます。そこで、東京都に限らず、他県からの研修者を受け入れ、一方で育成した人材を他県へ派遣することも検討していきます。また、我が国だけでなく、この分野の世界を代表する研究拠点となるべく努力してまいります。

(3) 周産期医療と小児医療の連携

東大病院の小児医療センターは、入院棟 B (2・3 階) の小児の外科系・内科系病棟と、この度拡充した入院棟 A (2 階) の新生児・小児 ICU 系病棟で構成されます。また、入院棟 A (3 階) と隣接する中央診療棟 2 (3 階) には総合周産期母子医療センターがあります。小児・周産母子診療部門を 2・3 階に集中的に配置することで、出生前から出生後、母とこどもの超急性期医療から一般的な急性期医療まで一体的に行える体制を整えています。なお、総合周産期母子医療センターも今年 6 月には入院棟 A・3 階部分の改修を終え、エリアを拡大して分娩施設を増強し、MFICU なども増床します。小児医療センターと総合周産期母子医療センターが今まで以上に有機的に連携し、我が国の周産期医療をさらに充実できるよう新たなスタートを予定しています。

【3. 今後の展望】

国立大学病院である東大病院が新生児・小児ICU系の充実を図り、将来の子ども達の医療を推進することの社会的な意義は大きいといえます。東大病院はこの度の拡充により最重症の子どもを救命し、小児科学・新生児学を最大限に発展させ、同時にこの分野の将来を担う優れた医師・看護師を育成することを目指します。東大病院は未来の世界を担う子ども達のためにさらに貢献したいと考えています。

【4. お問い合わせ】

<小児医療センターについてのお問い合わせ>

東京大学医学部附属病院

小児医療センター

センター長・教授 岡 明（おか あきら）

電話：03-5800-8821（直通）

E-mail：oka-tky@umin.ac.jp

<広報担当連絡先>

東京大学医学部附属病院

パブリック・リレーションセンター（担当：渡部、小岩井）

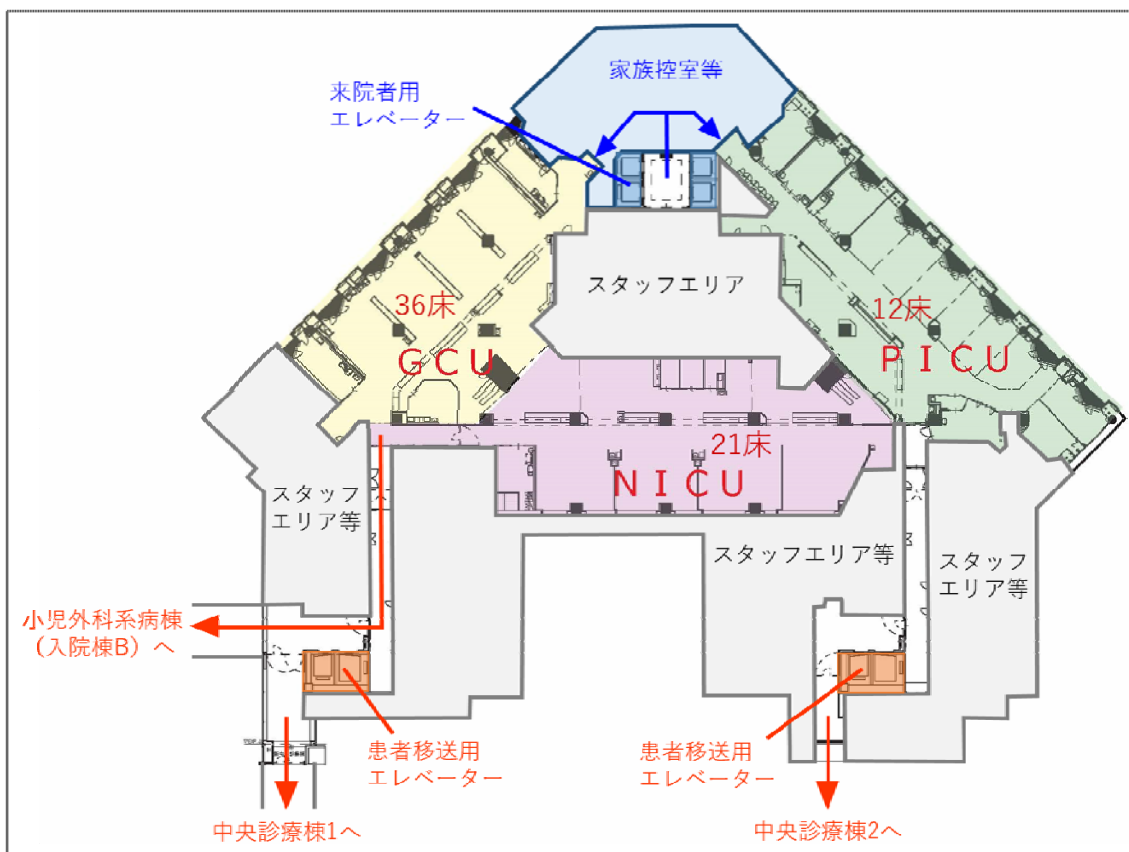
電話：03-5800-9188（直通）

E-mail：pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

【5. 添付資料】



整備中のGCU（左）とPICU（右）



新生児・小児ICU系病棟（入院棟A・2階） 平面図